

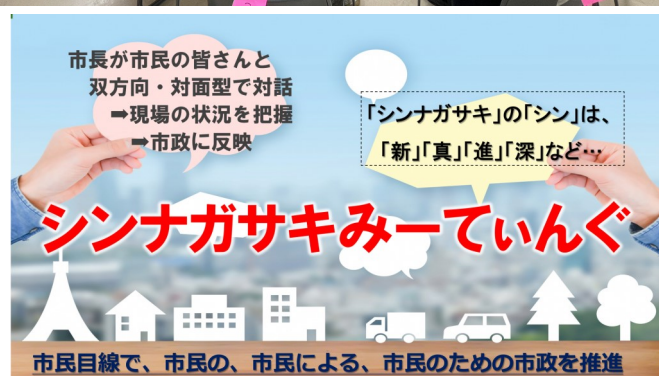
シンナガサキミーていんぐ開催レポート

in 子ども食堂



令和8年3月13日（金）、市内で子ども食堂を運営されている代表者 22人の皆さまと「シンナガサキミーていんぐin子ども食堂」を開催しました。

皆さまから、子ども食堂を始めたきっかけ、地域交流、悩みを抱えたこども達への思いなど子ども食堂を運営していく中で感じていることをお話いただきました。



いただいたご意見

①食材の保管場所について

食料や食材を集めて保管する場所の確保が難しい。長崎市が所有する廃校や倉庫などの一部を無償もしくは安価な利用料で貸してほしい。

市の考え方
回答

市の施設の利用については公平性の観点から、使用料・利用料が発生します。公益性のある目的で利用する場合、利用料の5割減免の措置も可能です。
今後、資産経営課に利用可能な施設を確認します。

②親支援について

精神疾患を患っている親がいる家庭では、食事の準備が病気のためできず、こどもが温かいものを食べたことがない、外食をしたことがないなど社会的孤立に繋がる可能性がある。市の子育てサポート課と連携し、協働的なアプローチができるようになると良いと思う。

市の考え方
回答

現状をしっかりと把握し、市がどのような関与が適切なのか、様々なケースへの対応の仕方を現場の状況を確認しながら、学んでいきたいと思います。

③告知方法と学校の連携について

小学校での周知をお願いすることが多いが、対応が学校によって異なる。保護者向けのアプリで開催告知することを許可していただければと思う。

市の考え方

回答

長崎市では、保護者向け連絡ツールを利用して、小中学生の保護者にチラシ等の配信を行っています。インターネットから「長崎市電子申請サービス」を表示して、「tetoru」と検索することで配信依頼ができます。

④営業許可に関する明確な指針について

ハートセンターで障害児を対象に実施しているが、開設当初、保健所から臨時営業許可を取って欲しいと言われた。最終的に福祉目的であるため営業許可は不要だったが、担当者によって対応が異なるため指針を出して欲しい。

市の考え方

回答

食品を提供する対象者の範囲、対価の取り方及び反復継続性について聞き取りを行い、福祉目的か営利目的であるかをその都度判断しております。

⑤親支援、セーフティーネットの構築について

「チャイルドライン」という18歳までのこどもの電話やチャットを受け取る活動をしており、親子関係で悩むこども、心理的ネグレクト、虐待が増えてきており、親支援とこどものセーフティーネットの構築が重要だ。多様性も含めて長崎市と協力していければと思っている。

市の考え方

回答

市としても、子育て家庭に寄り添うこと、特にお母さんたちの孤立を防ぐこと、どこに相談していいかわからないという悩みに向き合うことが大切だと思っています。子育て支援センターなども活用しながら、様々な形で声が聞けるよう手段を整えていきます。

令和8年度からは家事代行サービスを妊娠期まで拡大しました。サービスを通じて異変をキャッチすることもできると思います。さらに、こども相談センターでは、学習者用端末からこどもたちが市に直接相談できる体制を整えています。

市の制度を子ども食堂の皆さんにも知ってもらい、そうした関係づくりをぜひしていきたいと思っています。

鈴木市長のひと言

子ども食堂がこども達の居場所として重要であることがよく分かりました。非常に貴重な学びをさせていただきました。ありがとうございました。



参加者からの感想

とても有意義な内容でした。市長に直接、子ども食堂の活動を知っていただきとてもよかったです。

こどもの居場所作りを始めて日が浅いので、とても勉強になった。

普段言えないこと、聞けないことが聞けた。



発行：令和8年7月

長崎市こども部こども政策課、企画政策部広報広聴課